資料６

（３）協　議

② 小中一貫教育校を実施するうえでの課題と解決のための方策について

【教育課程及び指導内容等】

＜児童・生徒にとって＞

① 低学年の児童にとって、通学距離が長くなる懸念

② 人間関係が固定化してしまう懸念

③ 小６の児童に最高学年としてのリーダーシップを発揮させる機会がなくなることや、中１の生徒には、不安が少ない一方、入学時に感じるような喜びや期待感が薄くなってしまうこと

④ 転入してきた児童・生徒にとまどいが生じる懸念

⑤ 校舎・敷地が離れている場合の移動の問題

＜保護者にとって＞

⑥ 保護者同士の人間関係がうまくいかなかったとき、長引いてしまう懸念

＜教職員にとって＞

⑦ 慣れ親しんだシステムとは異なることによる負担感の増大

⑧ ９学年が一緒になった行事運営の難しさ

⑨ 異校種の児童・生徒への指導に関する研修体制が未確立なため、発達の段階に応じた指導が展開できるかという懸念

【学校の組織・運営等】

⑩ 小中の免許を持つ教員とそうではない教員との仕事分担の違いから不公平感が生じる懸念

⑪ 行事等に係って、教職員の打合せや会議の回数や時間が増えることへの懸念

⑫ 教職員の「９年間の教育」に関する意識を持続させることの難しさとともに、９年間ずっと勤務できる教員はほとんどいないため、理念を継承することの難しさ

⑬ 専任の小中コーディネーターなどの人的配置が必要

【地域コミュニティとの関係】

⑭ 統廃合を伴う場合、地域で慣れ親しんだ学校がなくなることへの抵抗感

⑮ 従来の学校を軸とした地域コミュニティが分断される懸念と通学区の再編とともに地域コミュニティの再編の必要性